



KANSAI no MIRAI 話

小川 克己(淀川ヒューテック 社長)
奥田 智(をくだ屋技研 常務取締役)

次代を担う、 若きリーダーたち

関西経済界の未来を創造していく方々にお話を伺う新シリーズ。
第1回は、次代を担う若きリーダーお二人に、
関経連での役割もふまえて語っていただきました。



小川 克己

1971年生まれ。2015年より関経連グローバル人材育成・活用委員会委員長を務める。大切にしている言葉は、会社のモットーでもある「Something New」。



奥田 智

1974年生まれ。2015年より関経連国際委員会副委員長を務める。新しいことに挑戦するときは、いつも「温故知新」という言葉を胸に。

グローバル人材が もたらす変化

一関西の未来を語る上で、「グローバル人材の活用」は大きなキーワードです。小川：当社は現在、韓国、台湾、中国に拠点を置き、売上の海外比率は約40%に達しています。海外拠点での現地採用に加え、日本でも留学生を採用しており、海外の仕事が増えるにつれて彼らの活躍の場所が増えてきました。グローバル人材の「活用」と言いますが、むしろ「必要不可欠」な存在ではないでしょうか。奥田：同感です。われわれ中堅企業にとって、「スピード」は経営上の大きな課題ですが、それをクリアするには、日本人が現地化することを何年もかけて待つより、すでに語学や現地の文化・風習、ビジネス上の商習慣などに親しんでいる人材に任せることが必要だと思います。当社がマレーシアと中国に置いている

現地法人では、すでに現地採用の人材が経営を担っています。日本人社員に目を向ければ、グローバル人材と接するなかで、海外に興味を持つようになり、いわば「親グローバル人材」に成長するという、嬉しい変化もありました。小川：当社でも、留学生を採用することは周りの社員への刺激にもなり、日本人社員の「グローバル化」を促していると感じます。非常にモチベーションが高く、スキルもあり、考え方もポジティブな彼らに、「負けていけない」との思いも湧くようです。一お二人ご自身も海外在住経験をお持ちの「グローバル人材」です。奥田：米国の高校に通い、その間、中南米なども旅したのですが、その4年は価値観、人生観のすべてを変える大きな経験の連続でした。今も続きますがご縁を得たということもありますし、なにより、人と違う自分がいるように、自分と違

う個性がこの世界中にあるということ、自然と受け入れられるようになりました。小川：私も、ビジネススクールに通うために米国で過ごした2年は、人生を変える経験でした。20代という比較的若い時期に、外国人学生たちと切磋琢磨した日々は、実際に今、経営に役立っていますし、世の中が一層グローバル化するなかで今後も武器になると考えています。米国時代には、現地で求職・就職も経験しましたので、海外からの留学生たちが就職に際して抱えている苦勞など、よく理解できる部分があります。一方で、今の私には、実際にグローバル人材を活用している企業の経営者としての考えもあります。関経連では、こんな私だからできる提言活動を積極的に行っていきたいと思っています。

時代と世代を超え 柔軟に前へ

一未来を担う世代としての思い、そして

ご自身より若い世代に対する期待は。小川：産業構造そのものが変化するなか、これまでのやり方が通用しない場面が次々として出てくるでしょう。これからは、変化のスピードに対応する力に加えて、自分自身が「変えていく」「変化を作り出す」という柔軟性と気概を持つことが求められていると思います。奥田：先般の関西財界セミナーでも「オープンジェネレーション」がキーワードとしてあげられていましたが、先輩方から見ると、若い世代は思っていた以上にいろいろなことを考えているのだな、という部分があると思いますし、若い世代としては、思っていた以上に先輩方が受け入れてくださることを知りました。われわれの10歳、20歳年下になると、ソーシャルネットワークなども活用し、これまで想像もつかなかったような方法で自分を表現する世代になります。彼らには、自分の強みを生かし、先輩方の

胸を借りる気持ちで、失敗を恐れずにチャレンジする勇気を持ってくればと期待しています。

チームとして 強い関西へと導く

一関西の未来をどのように展望されますか。小川：関西の大きな特徴として、大企業とともに、われわれのような中堅企業が産業を支えています。“中堅・中小企業が産業を支えています。海外の大企業も顧客として相手にできる自由度がある。グローバル化が進むにつれて、その自由度はさらに有利に働く。”そう考えると、中堅・中小企業の成長が関西経済全体への貢献となりうるのではないのでしょうか。気を引き締めて、しっかりやっていきたいですね。奥田：おっしゃるとおりです。加えて、関西には文化の蓄積という強みもあります。インバウンドも盛り上がっていますし、関経連も力を入れて取り組んでいる

スーパー・メガリージョンの形成、健康・医療産業の創出、人材育成など、今後、世界から注目を集めるポテンシャルを関西は大いに持っています。10年、20年先の姿がとても楽しみです。一関経連に対する思いを。奥田：「国づくりは人づくりから」という思いのもと、関経連では「人」にスポットを当てた画期的な取り組みが多くあります。私自身は、特に同じ中堅・中小企業への橋渡ししとなるよう、会員・会員外の区別なく関経連の取り組みを積極的に発信しネットワークを築き、関経連の周りに関西を想う「人」を集めていきたいと思っています。小川：そうですね。関経連は企業のみならず、学・官なども巻き込んで活動する組織という、ほかにはない魅力を持っています。産学官一体となり、「チーム関西」として、グローバル競争に打ち勝っていきましょう。